学校だより　９月号

～ひとがすき　まちがすき　いわさきの子～

横浜市立岩崎小学校　　電 話 ３３１－５１２３
ＦＡＸ ３３１－５３４３

90 周年キャラクター「ヒマリン」

未来社会を切り拓いていく力　～予測が困難な時代だからこそ～

校長　小林　雅弘

例年に比べ梅雨明けが遅かったこの夏ですが明けた途端に連日猛暑が続いています。そんな中短い夏休みも終わり、17 日から学校が再開しました。久しぶりに子どもたちの元気な姿を見て、嬉しく思うと同時に、安全･安心な学校づくりを推進するため、教職員一同気を引き締めているところです。今後も新型感染症及び熱中症の予防に最大限注意して教育活動を行っていきたいと思います。

さて、新しい学習指導要領が今年度から小学校において全面実施となりました。「学習指導要領」とは一言で言うと、国が示す日本の教育の骨格です。今回の改定で特に重点が置かれていることは、**「社会に開かれた教育課程」を重視し未来社会を切り拓くための資質･能力を育成する**ということです。

ここで言う「未来社会」とはどのような社会なのでしょう。人工知能（ＡＩ）の飛躍的な進化などの絶え間ない技術革新、急速なグローバル化、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少･･、今の子どもたちが成人して社会で活躍する頃は今とは社会構造も大きく異なっていることが考えられます。

右の絵は、文部科学省が発行した『令和２年版科学技術白書』に載っている 2040 年の社会のイメージです。この絵の中では、「人が乗れるドローン」や「ロボットの盲導犬」、「臓器の３Ｄプリント」など驚いてしまうものもありますが、「乗り物の自動運転」、「教育のデジタル化」、「無人農業」「遠隔操作による治療」などすでにある程度実用化されているものもあり、あと 20 年後の社会としては、あながち間違いではなく、かなり現実的な話であると考えるべきだと思います。現在の子どもたちは、まさに右の絵のような近未来の社会に出ていくことになります。そこで必要となるのは、「問題を発見する力」「解決に向けて自らの考えをもつ力」「他者と協働してよりよい考えに高めていく力」など様々ですが、そのような未来志向の中で、日々の授業を展開していくことが学校に求められています。本校もよりよい授業をめざし、これからも不断の授業改善に取り組んでいきます。

令和２年版 科学技術白書（文部科学省）
www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/kagaku.htm

今回の学習指導要領を策定するうえで基となった「中央教育審議会答申(H28.12)」には、私が気に入っている一節が書かれています。

〇人工知能がいかに進化しようとも、それが行っているのは与えられた目的の中での処理である。一方で人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくかという目的を自ら考え出すことができる。
〇予測が困難な時代にあってこそ、子供たちが自信をもって自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出していくことができるよう、必要な力を確実に育んでいくことが期待されている。
〇全ての子供は、学ぶことを通じて、未来に向けて成長しようとする潜在的な力を持っている。

新型感染症の状況についても、まさに予測が困難です。そんな困難な状況だからこそ、自ら考え、自ら判断したり他者と協働したりしながら、最善解を求め、判断していく、そんな力を日々の教育活動を通して養っていきたいと考えています。